

特集

# れんがのまちを知る

皆さんは、れんがについて

どのくらい知っていますか？

四角い、堅い、赤茶色、などなど

れんがについての一般的なイメージは

いろいろありますが、

あまり知らないという人のほうが

多いのではないのでしょうか。

私たちの住むまち、江別は

国内でも有数のれんが生産地であり、

「れんがのまち」と呼ばれています。

せっかく「れんがのまち」にいるのに

れんがについて知らないなんて、もったいないです。

「れんがのまち」のれんがのことを、

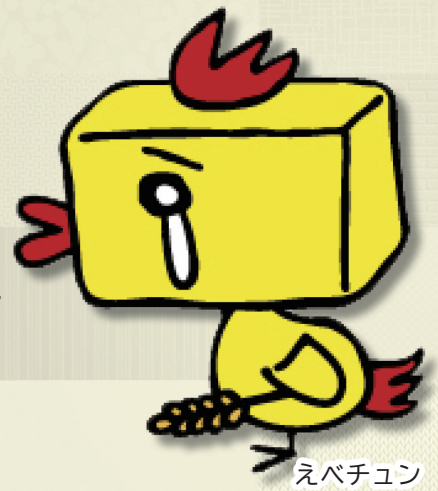
いろいろ知ってみませんか？





# れんがのことを知る

れんがについて  
教えてください



れんがについて、皆さんはどのくらい知っていますか？  
まあまあ知っているという方も、あまり知らないという方も、  
もしかしたら、まだまだ知らないことがあるかもしれません。  
ここでは、れんがについてのあれこれをご紹介します。

## れんがの表と裏？

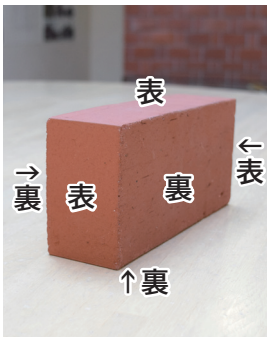
実は、れんがには表と裏があります。

そう言われても、れんがの面なんて全部同じではないのかと疑問を持つ方がいると思いますが、表と裏はあります。では、どこが表でどこが裏

かと言うと、れんがの建造物などで私たちに見えている部分が表で、積まれていて見えていないところが裏です。

れんがを作るうえで、どうしてもれんがを切断した際の跡などが残ってしまうため、その部分は裏として見えないように積み、跡などがついていない綺麗な面を表として、私たちに見えるように外向きに積んでいます。

れんがを積む職人さんは、積むときに一瞬で表と裏を判断して積んでいるそうです。れんがを手取る機会があつたらぜひ、表と裏の違いを確かめてみてください。



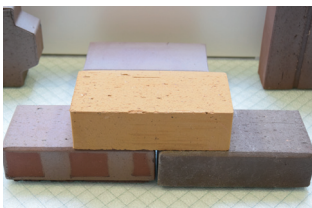
## れんがって何色？

れんがって何色と聞かれると、多くの方は赤茶色と答えるのではないのでしょうか。

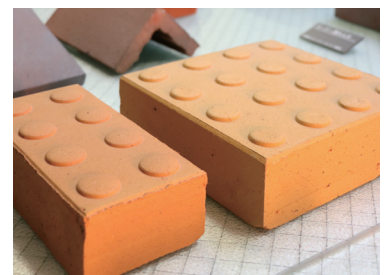
この色は、街中でもよく見かける一番なじみのある色で、この色のれんがは「赤れんが」と呼ばれています。

実は、赤茶色だけではなく、黄色や黒っぽい色のれんがもあることを皆さんは知っていましたか？

れんがの色は、原料に含まれる金属、焼き方、焼く温度によって変わります。焼くときに酸素を多くすると、赤茶色の「赤れんが」になり、逆に酸素を少なくさせると黒っぽい「黒れんが」になります。焼く温度が低いと色は薄くなり、赤茶色までいかず、オレンジや白っぽい色になってしまいます。また、通常れんがの原料の粘土には鉄分が混ざっています



上が黄色、左が赤茶色、右が黒っぽい色のそれぞれ色が異なる3つのれんが



黄色のれんがを使い、作られた点字ブロック

混ぜると黄色の「黄れんが」になります。

このように、れんがの色は種類だけではありません。しかし、街中で「赤れんが」以外の色のれんがを見たことがない、印象に残っていないという方が大半だと思います。

では、「赤れんが」以外の色のれんがはどこで使われているのでしょうか。たとえば、黄色のれんがは市内の歩道の点字ブロックとして使われています。

まさか、こんなところにも？と思われる場所にも、れんがが使われていたりします。点字ブロックはあくまで一例ですが、れんがのまち江別で、街のどこに何色のれんがが使われているのか探してみるのも、おすすめです。

## れんがの大きさは全部同じ？

昔かられんがの大きさは、世界共通の決まりがあります。それは「職人が片手で持てる大きさ」です。れんがを積む際に、いちいち両手でれんがを持っていったのでは作業が全然進まないからです。

そんな曖昧な決まりだと、地域によってれんがの大きさがバラバラになってしまうのではないかと疑問があるかと思いますが、まさしくその通りです。アジア圏と欧米圏では、体格や手の大きさが異なるため、欧米圏のれんがの方がアジア圏のれんがよりも大きいです。

現在でも、外国産のれんがは日本のれんがよりも大きいので、比べてみるのも面白いかもしれません。



左が中国、中央が韓国、右がドイツで生産された大きさが異なるれんが





れんが工場（両登り窯）

# れんがの歴史を知る

江別で、れんが産業はどのように始まったのか。また、今までれんがが作り続けられてきた要因は何だったのか。

セラミックアートセンターの兼平一志学芸員に話を聞きました。

## 江別でれんがを生産するようになった背景は…

### れんがの歴史は、近代化の歴史

幕末から明治時代にかけて、れんがは近代化の象徴と言えました。木造家屋が主流の日本は火災が深刻な問題となっていたので、燃えない丈夫な建物を作るため、れんがの需要は急速に伸びていったのです。北海道では、まず函館でれんがの生産が始まりました。そこから、れんが生産の中心地は徐々に札幌の方へと移り、現在の白石区と豊平区一帯に主要な工場がありました。その後、札幌で宅地化などが進み、原料の採掘地が狭められたことや明治30年代から野幌にれんが工場の設立が相次いだことで、北海道のれんが生産の中心が札幌から江別へと移り変わっていくこととなります。

## 生産するための、3つの要素

江別でれんがが作られるようになった理由は、れんがを生産するために必要とされた原料の粘土、平坦で広大な土地、れんがを焼くための燃料の3つが容易に入手できたためです。

### 原料の粘土

江別は、粘土などが幾重にも堆積した野幌丘陵という舌状台地の上に位置しており、れんがの原料土が豊富に採れます。それらは、「赤ぼか」「目無粘土」と呼ばれる粘土のほか、脱粘剤としての「山砂」であり、質の高いれんがを作るためには、欠かせません。現在でも江別には、れんがの数に換算すると約5億7千万個にもなる莫大な量の粘土が埋蔵しているといわれています。

### 広大で平坦な土地

また、野幌にれんが工場ができた明治30年代は、れんがを乾燥させる際に天日干しをしていたため、何千万という大量のれんがを干すことができる広大で平坦な土地が必要でした。

江別には起伏などもなく、工場の操業に必要な土地を確保しやすい環境がありました。



原料の粘土採取



江別市教育委員会 教育部郷土資料館参事  
(セラミックアートセンター事業担当)  
兼平 一志 学芸員



## 燃料

れんが生産を始めた当初の明治時代は、れんがを焼くための燃料として薪材が使われており、その頃の江別には燃料となるタモやハンノ木といった樹木が繁茂していました。

また、大正時代になると、燃料は徐々に石炭へ移り変わっていき、江別は石狩、空知などの産炭地が近く、手に入れやすいという立地に恵まれていました。

現在では、主に重油が燃料として使われています。

## 生産の中心地となる江別

このように、れんがを生産するために必要な要件が、江別という一つのまちの中に揃っていました。

さらに、札幌や小樽といった大量消費地が近いという立地に加えて、全国でも早い段階に整備されていた鉄道や石狩川の舟運といった交通の便が良かったという状況なども、江別のれんが産業を優位づけたのではないのでしょうか。

このような要素や条件が重なり、江別でれんが産業が開始され、どんどんと産業が発展していき、江別は北海道におけるれんが産業の中心地となっていくたのです。

## 作り続けて、130年

### 「れんがのまち」江別

江別のれんが生産は、明治24年がはじまりだと言われており、江別でれんが産業がはじまってから、来年で130年の時を迎えます。

最盛期の昭和30年代には、市内で15社のれんが工場が稼働しており、野幌のれんが工場の煙突群はれんがのまち江別の象徴と言われた程でしたが、現在は3社のれんが工場が稼働するのみとなっています。

それでも、江別のれんがは国内シェアの20%を誇り、国内の著名な建築物にも使われるなど、日本のれんが産業を支えています。



野幌のれんが工場煙突群  
当時のれんがのまちを代表する景色

## 今日まで続く、れんがの生産

130年もの間、れんがの生産を続けることができた理由として、さまざまな好条件が重なったことに加え、やきものを研究していた北海道立工業試験場の窯業分場が江別にあり、江別のれんがの品質を高める役割を担ったことが大きいと考えています。

明治期には、北海道開拓を支えたれんがでしたが、昭和に入ってから段々とコンクリートなどが非木造建築の主流となっていく、そのような時代の中で、戦後、江別に北海道立工業試験場の窯業分場が設置されました。

この窯業分場は、市内で操業しているれんが工場と協力し、れんがの品質を向上させるための技術革新や新製品開発などを盛んに行い、江別のれんがを着実に品質の良いれんがへと変えていきました。



北海道立工業試験場野幌窯業分場  
市内にあったれんがなどを研究していた施設

この研究施設とれんが生産者、双方の取り組みや努力が、江別のれんがの価値を高め、安定した需要と供給に繋がったと考えています。

その結果として、現在に至るまで江別のれんが生産は続いてきているのではないのでしょうか。

## これからの可能性

現在、建物の構造体としてのれんがは、なかなか見なくなりました。しかし、れんがは外壁材としてはすぐく優秀な素材ですし、内壁材や道の舗装材、古い建物の補修用など、れんがの需要はこれからも続いていくと思いますし、まだまだれんがには可能性があると感じています。

れんがについてもっと知りたいと思った方は、セラミックアートセンターへお越しください。



れんがの歴史的資料を見学したり、学芸員による解説（予約制、事前連絡が必要）を聞くことができます。

詳細は、右のQRコードから



セラミックアートセンター（西野幌 114-5）  
開館時間 9:30 ~ 17:00 ☎ 385-1004



江別で活躍するお二人が語る、江別れんがの魅力

# れんがの魅力を知る

焦熱魔界エブリピオンの領主

**レンガ塔男爵 さん**

えべつ観光特使のVtuber。

Youtubeで江別に関する内容などを、ユーモラスに配信しています。

Twitter



Youtube  
チャンネル



**森 陵一 さん**

NPO法人やきもの21の副理事長。

今や夏の定番ともなった「やきもの市」の開催を手掛けるなど、幅広く活動をしています。

やきもの21ホームページ



「れんがのまち」江別を舞台に、れんがの魅力を発信しているお二人に、お話を伺いました。

— れんがに興味を持ったきっかけは何ですか？

**森** 私にとって、れんがの建物、れんがを使った街並みというのとはごくごく当たり前の光景でした。

住んでいるところも、学校もれんがで出来ていて、高校を卒業するまで、特にれんがを意識したことはありませんでした。

高校を卒業したあと、仙台で2年間暮らした際に、今まで見ていたれんがの光景というのは当たり前ではなかったんだと気づきました。

れんがを意識するようになったのは、ここからでした。

**男爵** 私も同じような感じですね。私は生まれた時から、頭がれんがなので、興味を持ったきっかけと言われると難しいのですが…

私が江別に来たときに、れんがの建物や道があるのを見て、ああ、こんな風景、街並みが普通なんだと思っていたら、本州などに行くのと全然そんなことがなくて、驚きました。

れんがの建物というだけで珍しいという感じで、江別のれんがの街並みというのは特別な光景なんだなと思いました。

— ずばり、お二人が感じるれんがの魅力は何ですか？

**森** れんがは人が積んでいくものなので、どこかにいびつさがあったり、焼きムラがあったりと1個1個完全に同じものではないので、遠くで見たとときと近くで見たとときの見え方、感じ方の違い。時がたつごとに出てくる苔や傷なんかも一つの味になり、育っていくという感覚を味わえるのが私は魅力だと思います。

**男爵** 私が感じる魅力は、やはりれんがのあの赤みですね。

特に北海道は雪が降るので、雪白とれんがの赤のコントラストが綺麗だと感じました。

あと、赤れんがの色合いが温かいですよね。北海道という環境の中では特にそう思います。見ていてほっとするのは、れんがの魅力だと思います。







**森** レンガ塔男爵さんが感じるれんがの魅力には、裏話がありまして…。  
実は、れんがの性能って地域差があるんです。

ホームセンターなどで売っているれんがは大体は外国産なんですけど、外国産のれんがは寒さにあまり強くないんです。

北海道みたいな寒い地域で何年か使っていると割れてしまうこともあるみたいなんですけど、江別で作られているれんがは寒さに強いんです。

江別のれんが工場では、北海道に適した寒さに強いれんがを、それぞれの工場同士が切磋琢磨しながら作りだしたんですよ。

**男爵** へえ、そうだったんですか。江別のれんがには、そんな特徴があつたんですね。

でも、そういう良さが見た目ではわからないというのは、何だかもつたないですね。



**森** れんがには使ってみないとわからない良さがいっぱいありますからね。何かの機会に、ぜひ多くの方にれんがを使ってもらい、自分なりの魅力を感じてほしいです。

若い世代に、れんがを知ってもらう、興味を持ってもらうためにはどんな方法が良いと思いますか？

**森** れんがは、おしゃれで魅力があるんだぞと上手に発信することが、まず大事だと思います。

例えば、SNS映えるような場所があれば、若い子たちは興味を持ってくれますし。

そのためには、ただれんがの建物がポツンと一棟建っているだけでは

弱いんですね。れんがの建物が密集した空間があつたら、SNS映えしますし、人気のスポットになると思います。

もし古いれんがの建物などがあつたらすぐに取り壊すのではなく、何とか再利用出来ないか検討してみたいですね。

**男爵** たしかにSNS映えるスポットはあると良いですね。

私は、れんがにもっと遊びを入れたら面白いと思いますね。れんがに興味を持ってくださいと、いきなり言われても、もともと関心がある人以外は無理だと思うので…。

れんがは建材という概念から離れて、れんがでこんなことが出来るんだという遊びを入れた新しい側面を発信できれば良いですね。それだけのポテンシャルはあると思います。

**森** 遊びを入れるのは、私も大切だと思います。

私は、やきもの市で行っているれんがドミノの発案者なのですが…。

1回目にやろうと言ったとき、実は却下されて、2回目に再度やろうと提案してようやく実現したんです。やってみると結構面白いじゃんとなつて今日まで続いています。

**男爵** やっぱり実際にやってみないと、面白さってわからないですね。

私も、いろんな企画に挑戦して江別や江別のれんがの良さを発信していきたいと思っています。

## 「れんがのまち」を知る

私たちの住むまち江別には、日本や世界にも誇れる「れんが」があります。

しかし、その良さは日常のなかに埋もれてしまつて、なかなか見つけにくいかもしれません。

江別のまちの所々にあるれんがには、それぞれに魅力や歴史が詰まっています。関心を持つことで、見える魅力もあり、そんな魅力を感じるものが「れんがのまち」を知ることではないでしょうか。

この機会に、私たちの暮らし「れんがのまち」を知ってみませんか？

特集 れんがのまちを知る 終

## 特集への感想をお寄せください

郵送・ファクスで送る

〒067-8674 高砂町6 広報広聴課 FAX 381-1149

市ホームページで送る

右のQRコードを読み込み、アンケートフォームから感想をご記入ください。

